

# 主祭神

■神社では複数の神を祀っており、その中で主として祀られる神

## 大山咋神

おおもまのぬしのかみ  
……名前の「くい(くひ)」は杭のことで、大山に杭を打つ神、すなわち大きな山の所有者の神を意味し、山の地主神であり、また、農耕(治水)を司る神とされる。

## 大物主神

おおもものぬしのかみ  
……大物主は蛇神であり、水神または雷神としての性格を持ち、稲作豊穰、疫病除け、酒造り(醸造)などの神として篤い信仰を集めている。

# 相殿神

## 菅原道真公

はにやまひめのかみ  
壇山姫神

## 火産霊神

えびすのかみ  
蛭子神

## 罔象女神

うけもちのかみ  
保食神

## 金毘羅神

みずはのめのかみ  
こんびらしん

# 御由緒

文書による正確な記録はありませんが、『社伝』によると、聖武天皇の天平五年(西暦七三三)、加賀国の住人(道高古が近淡海国の日枝山大山咋神の神徳に感じてこの地に奉斎したとあります。また『大野郷山王社来由』によると、天平五年六月二十四日、近江国の住人で、大野何某という人が、大山咋神を崇敬していたが、生国が加州大野郷であったので、その子行根に奉遷安置させたといわれています。

大山咋神は、日本最古の書物である『古事記』にもその御神名が記されている比叡山の山の神様であり、麓(滋賀県大津市坂本)に鎮座する日吉大社東本宮の御祭神です。

貞観二年(西暦八六〇)には日吉大社西本宮の御祭神である三輪大物主神を勧請合祀し、大山咋神と共に当社の主祭神としております。

また、明治三十五年に境内末社菅原社を、明治四十年には境内末社の鎮火社・西宮社・稲荷社を合祀して、創建以来、四方破い、商売繁盛、家内安全、厄除けの霊験があらたかとして多くの方より崇敬を受け、今日に至っています。

西暦二〇三三年 創建千三百年大祭 斎行



## 交通アクセス

### ■お車でお越しの方

- JR金沢駅より……………約15分
- 北陸自動車道金沢西ICより……………約15分
- 小松空港より……………約40分
- 金沢港より……………約5分

### ■バスでお越しの方

- 北鉄バス香林坊より  
(大野下車徒歩約5分)……………約30分
- JR金沢駅より(本数わずか)  
(大野下車徒歩約5分)……………約20分

### ■JR・タクシーでお越しの方

- JR金沢駅西口よりタクシー利用……………約12分

### ■徒歩でお越しの方

- 北鉄バス金石ロータリーより……………約20分
- 金沢港より……………約15分



## 大野日吉神社

〒920-0331 石川県金沢市大野町5丁目81番地  
日吉神社社務所 TEL.076(267)5636  
お問い合わせ:若林神官宅 TEL.076(267)4588

※WEBサイトのお問い合わせフォームからもご利用になれます。  
<http://www.ohnohiyoshi.com>



加賀国 醤油処・金沢大野の古社

# 大野日吉神社



# 例大祭（山王祭）

夏の訪れを告げる、年間最大の神事。

当社の夏祭りは、「山王祭」と称して、

金沢三大祭の一つに数えられ、

町を挙げて賑かに、賑々しく、

昔から親しまれている夏の風物詩です。

この祭礼二日間（七月第四土曜日（日曜日）は

老若男女氏子の心が一つとなり、

早朝から夜間まで盛大に斎行されます。



御荷物みこし



祭り太鼓



御神輿



樽台みこし

## 金沢市指定無形民俗文化財

### ■ 山王悪魔払

比叡山延暦寺の山伏が大野湊を通じて往来したことから生まれたといひ、古来より大野町では「弥彦ばば」の通称で、代々十六〜十七歳の若者によりその秘芸が継承されています。

町内六〇〇戸余を一戸一戸廻り、魔除けの舞を演じ、翌日には神輿渡御行列の神輿の後に随い、祭典の場で舞を奉納します。

首から賽銭箱をさげた先頭の坊主は、網代笠に柿色の法衣をまとい、白襷、手甲、脚絆に一枚歯の高下駄をはき、錫杖を打ち振りながら「東方に降三世云々」の経文を唱え、外縛の印を結ぶ。三人の舞手は白布で頭を包み、柿色、藍色、緑色の法衣を着、襷、脚絆、草鞋をはき、それぞれ般若面をつけた者は弓矢を、天狗面をつけた者は刀を、翁の面をつけた者はマサカリを持ち踊ります。

次に黒法衣に菅笠をかぶり、高下駄をはき、法螺貝を吹き、笛と太鼓の一群が続き、「大日大聖不動明王」と書いた紺旗、「降三世明王」の赤旗、「軍荼利夜叉明王」の黒旗、「大威徳明王」の白旗、「金剛夜叉明王」の緑旗の五色旗を押し立てて総勢二十人余が随行します。



マサカリ



刀



弓

## 金沢市指定無形民俗文化財

### ■ 加賀獅子舞

加賀獅子舞は、その大きさと舞い方に著しい特徴があります。牙をむいて威嚇し荒れ狂う獅子を、一人或いは二、三人の「棒振り」が武器を持ち、業を尽くして打ちこらし退治する勇壮な形が基本となり、大人はもちろん保育園（年長）、小学六年生と中学一・二年生も参加し、伝統芸能を継承しています。総勢四十〜五十人で、「頭」「棒振り」「笛」「太鼓」「三味線」をそれぞれ担い、町内を廻ります。

### ■ 山王祭の見どころ

見どころは、午後六時から二時間。午前十一時三十分には奴行列（金沢市指定無形民俗文化財）が先導して、御神輿巡行行列が神社を出発し、全町内を廻り、二箇所まで神事を執り行うと同時に、両日の出し物が集結して舞を奉納します。午後六時から樽台みこしと御神輿の二基がお練りを開始して、お祭りムードが最高潮に達します。



奴行列



加賀獅子舞



加賀獅子舞

## 〔年間祭典神事〕

1月 1日	歳旦祭
2日	〃
10日	船方(金毘羅宮)祭
2月 3日	節分厄除祭
3月24日	祈年祭
4月 7日	鎮火祭
8日	〃
5月 9日	菅原祭
10日	稻荷祭
6月30日	夏越の大祓式
7月第4土曜日	例祭
第4日曜日	神幸祭
9月20日	西宮祭
21日	〃
11月24日	新嘗祭(新穀感謝祭)
12月23日	天皇誕生祭
31日	年越の大祓式
毎月 1日	月次祭(おついたちまいり)
毎月24日	月例祭

## 社宝

神社に代々伝わる宝物

- 「山王猿」（鎌倉時代・守護職富樫泰家の寄進、作者不詳・越前石製）
- 「白狐」（稻荷狐）一対（大野弁吉作）
- 「丸屋獅子」頭一基（大野弁吉作）
- 「黒獅子」大型頭一基（大野弁吉作）
- 「下駄形獅子」小型頭一基（大野弁吉作）
- 「木彫漆塗り狛犬」井波彫刻師・崑川甚作作
- 「御神木イチョウの木」：十二代加賀藩主・前田齊広公、鷹狩りの折り参拝記念植樹。



山王猿

金沢一番の大木。